

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】令和 3 年 9 月 16 日 (2021.9.16)

【公開番号】特開 2020-39772 (P2020-39772A)

【公開日】令和 2 年 3 月 19 日 (2020.3.19)

【年通号数】公開・登録公報 2020-011

【出願番号】特願 2018-171377 (P2018-171377)

【国際特許分類】

A 6 1 F 13/47 (2006.01)

【F I】

A 6 1 F 13/47 3 0 0

A 6 1 F 13/47 1 0 0

【手続補正書】

【提出日】令和 3 年 8 月 5 日 (2021.8.5)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 3 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 3 3】

トップシート 2 は、液を透過する性質を有するものであり、例えば、有孔又は無孔の不織布や、多孔性プラスチックシートなどを例示することができる。不織布は特に限定されるものではない。例えば、不織布の構成繊維としては、ポリエチレン又はポリプロピレン等のオレフィン系、ポリエステル系、ポリアミド系等の合成繊維（単成分繊維の他、芯鞘等の複合繊維も含む）の他、レーヨンやキュブラ等の再生繊維、綿等の天然繊維等、特に限定なく選択することができ、これらを混合して用いることもできる。不織布の柔軟性を高めるために、構成繊維を捲縮繊維とするのは好ましい。また、不織布の構成繊維は、親水性繊維（親水化剤により親水性となったものを含む）であっても、疎水性繊維若しくは撥水性繊維（撥水剤により撥水性となった撥水性繊維を含む）であってもよい。また、不織布は一般に繊維の長さや、シート形成方法、繊維結合方法、積層構造により、短繊維不織布、長繊維不織布、スパンボンド不織布、メルトブローン不織布、スパンレース不織布、サーマルボンド（エアスルー）不織布、ニードルパンチ不織布、ポイントボンド不織布、積層不織布（スパンボンド層間にメルトブローン層を挟んだ S M S 不織布、S M M S 不織布等）等分類されるが、これらのどの不織布も、トップシート 2 に用いることができる。トップシート 2 に不織布を用いる場合、その目付けや厚みは特に限定されるものではないが、通常の場合、目付けは $10 \sim 35 \text{ g/m}^2$ 程度、厚みは $1.0 \sim 2.5 \text{ mm}$ 程度のものを用いることができる。トップシート 2 としては、サーマルボンド法により繊維が結合された短繊維不織布が好ましく、K E S 摩擦感テスターにより測定される平均摩擦係数（M I U）が 0.2 以下であることが好ましい。